



藩主御殿庭園の三段の枯瀧



清水御門御茶屋庭園

栖鳳楼庭園

藩主御殿庭園

堀の端部を庭園化したもので、堀の直線と庭の曲線が融合する限られた空間に効果的に石組を配置する。横からだけでなく、上（御茶屋）からの観賞も考慮している。

枯山水の石組と眺望が特徴の庭園。庭園の背後に城下町、メサの山並の近景、万年山・九重連山の山並の遠景が一望できる。

御殿からの観賞のために造られた庭園。枯瀧を中心にバランスよく巨石が使われ、迫力のある庭園に仕上げる。

# 庭

旧久留島氏庭園（国指定名勝）  
趣の違う  
三つの庭園

を作り上げた

八代藩主

旧久留島氏庭園は、八代藩主久留島通嘉が三島宮（現末廣神社）造営時に作り上げた庭園です。末廣山の斜面と堀部を利用した御殿に接する藩主御殿庭園と末廣山の南端に建てられた栖鳳楼の周囲につくられた栖鳳楼庭園、末廣山西側の清水御門前の堀の一部を庭園化した清水御門御茶屋庭園の三つから構成されています。

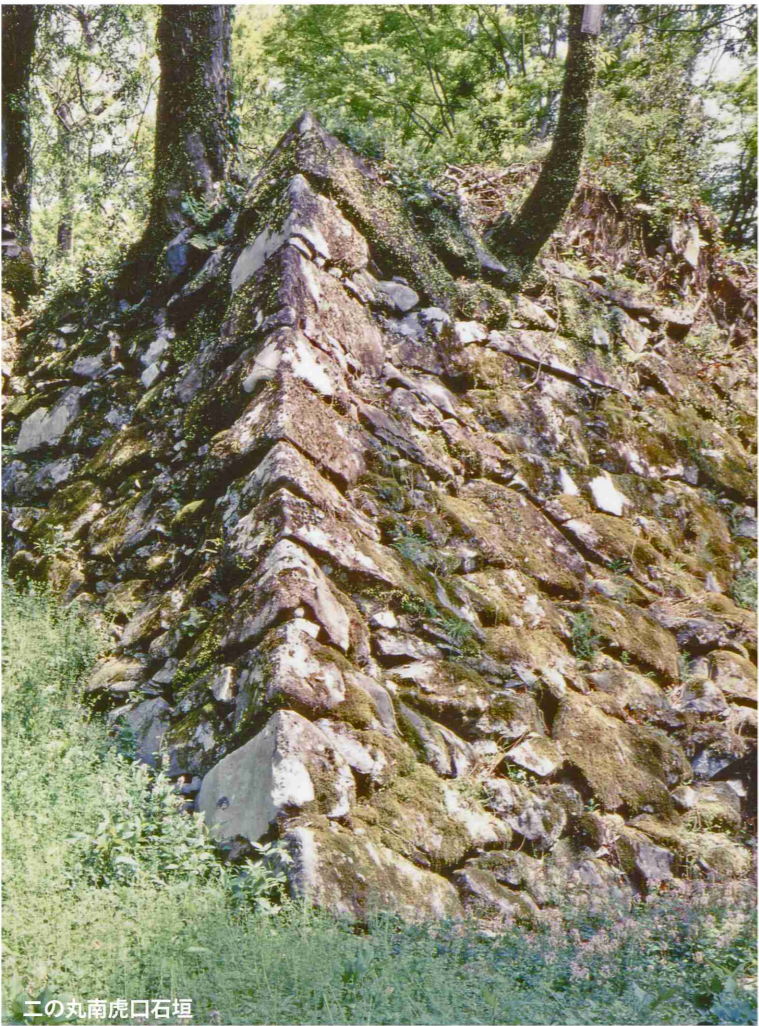
これらの三つの庭園は、末廣山の高低差・地形・眺望を最大限に利用して配置され、園路によって有機的かつ効果的に繋がれています。

角牟礼城跡（国指定史跡）

# 天険の山頂に築かれた高石垣

# 城

角埋山頂に築かれた山城で、玖珠と豊前を結ぶ交通の要衝に位置していたため、大友氏から豊後の境目の城として重要視されていました。天正十五年の豊薩戦では落城しなかった要害堅固な城です。文禄三年からは毛利高政が玖珠の拠点として城を改修したと考えられ、二の丸・三の丸地区を中心に高石垣と柵形虎口等をつくり、近世城郭へと変貌させました。これにより、角牟礼城跡は中世山城から近世城郭が成立していく過程を一目で見られる貴重な城跡となりました。毛利氏転封後は、久留島氏が入部しましたが、二代通春の時に角牟礼城を廃城とし、以後は御止め山として管理しました。



二の丸南虎口石垣



旧千葉家（町指定有形文化財）

森藩の家老を務めたことがある家。主屋・門は比較的良好に保存され、式台玄関を備えた森城下町を代表する武家屋敷。



竹瓦

半分に割った竹を仰向けにして並べ、残りをうつ伏せにしてかぶせる。これを2〜3段に重ねる。経済的で特殊技術は必要ないが、耐久性に劣る。

竹瓦の町並み

明治末期に撮影された写真。多くの屋根に竹瓦が葺かれている。

# 町

水軍のつくった

山間の

小さな城下町

森城下町

森城下町は瀬戸内海の水軍だった来島（のち久留島）氏がつくった城下町です。

武家屋敷地は、角埋南麓の陣屋を取り囲むように配置されています。建物は木造平屋、寄棟造茅葺を基本とし、平面は鍵屋（曲屋）と呼ばれるL字状で、座敷に面して庭園をつくっています。町家は、明治十六年の大火以後の建物ですが、町割りにはほぼ江戸期のままです。敷地は間口が狭く奥行きが長い短冊状で、表通りに面して主屋を配し中庭を介して離屋又は蔵があります。また、この町は「竹瓦」という特徴的な屋根材の景観を持っていました。